

広島・城仏土居屋敷跡

じょうぶつどいやしき

- 1 所在地 広島県東広島市八本松飯田八丁目
- 2 調査期間 二〇〇三年（平15）十一月～二〇〇四年三月
- 3 発掘機関 財東広島市教育文化振興事業団文化財センター
- 4 調査担当者 恵谷泰典
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

城仏土居屋敷跡は、西条盆地西端の深堂山南裾、黒瀬川西岸に位置する城館跡である。都市計画道路改良工事に伴い調査を実施した。



（海田市）

調査区は、長さ一六〇m幅一五mで、調査面積は二二一五㎡である。

調査区は屋敷の南端部分にあたり、一五世紀後半頃に屋敷地の東西幅を四〇mから八〇mへと大幅に拡張している。下面の遺構をⅠ期、上面の遺構をⅡ期とす

る。

検出した遺構には、Ⅰ期では馬屋と推定される掘立柱建物、門と推定される礎石付掘立柱建物、土坑、溝、堀、土塁、石垣、杭列などがある。Ⅱ期には、鍛冶炉などの作業場として利用されている。

木簡は調査区東側Ⅰ期の堀から一点出土した。堀からは、木簡以外にも漆器椀、羽子板などが出土している。遺構の時期は、一五世紀後半を下限とする。

8 木簡の积文・内容

(1)

□□

(92)×34×5 019

板目材で、上部が欠損している。材質はヒノキである。墨痕が認められるが、判読できない。

9 関係文献

財東広島市教育文化振興事業団文化財センター『城仏土居屋敷跡発掘調査報告書』（二〇〇五年）

（恵谷泰典）

